

特集号の刊行に際して

明治初年英国聖公会の一宣教師によって創始され、幾多の苦難と試練に堪えぬいてきた当桃山学院に、大学（経済学部）が設立されたのは救世主降生一九五九年（昭和三四年）であり、丁度日本聖公会の宣教百年記念の年でありました。それ以来早くも十年の歳月を経、その間に社会学部の増設をなし、着実な歩みが続けて参りましたことは、まことに喜ばしい限りであります。

このキリスト教論集も、本号をもって創刊以来第五号を数えるに至りましたので、大学創立十周年を記念するものとして、ウィリアム・テンプルの特集号を刊行することに致しました。幸いにも、ランベス会議前の多忙な時にも拘らず、テンプルの著作を最初に邦訳してわが国の思想界に紹介された後藤主教からいち早く原稿を頂き、テンプル研究の世界的な権威者であるハーバード大学のフレッチャ―博士からは、御自身の代わりとして新々気鋭の研究者マッコーネル師の原稿を送られ、病氣療養中の八代斌助主教と多忙な柳原光司祭からも原稿を頂き、内容豊かなものとすることができましたので、ここに記して謝意を表します。

過ぎて往った年月が速いとはいいいながらも、大学創立漸く十年にして、当研究室の活動もようやく途についたところであります。この研究論集にいたしましても、本学益々の発展に相伴なっていっそう充実したものとして行かなければなりません。したがって、皆様の御指導と御鞭撻を賜わるようお願いしております。